

2025 年 2 月 28 日

慶應 SFC 学会 殿

政策・メディア研究科 教授 荒川 和晴

2024 年度先端生命科学研究会冬季成果発表会成果報告書

標題の件について、下記の通り報告する。

1. 参加者：先端生命科学研究会所属教員 9 名、学生 56 名
2. 開催日時：2025 年 2 月 6 日（木）、7 日（金）（1 泊 2 日）
3. 開催地：伊豆山研修センター（〒413-0002 静岡県熱海市伊豆山 1065-1）
4. 内容：2024 年度修了予定の修士課程 5 名、学部生 16 名、合計 21 名の口頭発表を行い、研究会に所属する学生の意見交換会を開催した。修了予定学生の発表内容は以下の通り。
 - 1) 修士課程 2 年 市川 夏輝：葉緑体における光合成タンパク質の不均一な配置がもたらす利点をシミュレーションで探索する
 - 2) 修士課程 2 年 伊藤 らら
DNA Hairball: Method for mass-producing (G4C2)_n RNA to study intracellular ALS gels *in vitro*
 - 3) 修士課程 2 年 齋藤 怜奈
モジュール型ポリケチド合成酵素のドメイン間リンカーの構造と機能の解析
 - 4) 修士課程 2 年 五十嵐 水月：転写終結因子 Rho の機能調節と生理学的意義
 - 5) 修士課程 2 年 山本 フィリップ
A non-invasive species identification method using spider silk proteome analysis
 - 6) 環境情報学部 4 年 長谷川 智
Exploring Candidate Target RNAs of CspD Through Integrated Sequencing Approaches
 - 7) 環境情報学部 4 年 相場 はるな
上皮間葉転換を誘導したがん細胞由来細胞外小胞の代謝物質の解明及び周辺細胞に与える影響
 - 8) 環境情報学部 4 年 間野目 知樹
クマムシのタンパク質における非構造特異的末端配列の探索
 - 9) 環境情報学部 4 年 岡田 裕貴：転写制御ネットワークにおける重要分子推定手法の構築
 - 10) 環境情報学部 4 年 石渡 智里
ゲノム情報からみる、クモの進化系譜およびクモ糸の起源の解明
 - 11) 環境情報学部 4 年 足立 希美
オリゴヌクレオチドのライゲーションによる RNA 進化の描像
 - 12) 環境情報学部 4 年 讃井 彩夏：Inferring the relationships between Canine circovirus and other circoviruses through phylogenetic analysis and motif signatures
 - 13) 環境情報学部 4 年 城戸 萌：Assessing the effects of gut microbiota on personality

- 14) 総合政策学部 4 年 金澤 圭城: Two Distinct Investigations: Hero Proteins and Non-Equilibrium Quantum Simulation
- 15) 環境情報学部 4 年 大槻 晶子
The Effects of Neomycin Administration and Spermidine Administration on Infertility
- 16) 環境情報学部 4 年 櫻井 優生: ゲノム除去細胞を用いたファージ検知システムの開発実験
- 17) 環境情報学部 4 年 野曽原 建: クワガタムシの木材選好性の探求
- 18) 総合政策学部 4 年 池内 悠貴穂: 他臓器由来代謝物質に対するミクログリアの応答メカニズムに関するトランスオミクス解析
- 19) 環境情報学部 4 年 白幡 彩乃: Investigating the mechanism of music's stress relief effect: Exploring the relationship between music and the gut microbiota
- 20) 環境情報学部 4 年 高木 瑛莉: 細胞老化誘導による代謝物質及び脂質のプロファイル変化
- 21) 環境情報学部 4 年 熊谷 圭馨: ポリケチド合成酵素の基質特異性を決定する因子の推定

5. 総括

本年度も、学術交流活動助成金の後押しを受け、SFC と TTCK の学生および教員が一堂に会する合宿形式の成果発表会を実現することができました。今回の合宿は、参加者が直接顔を合わせ、日々の研究活動で得た成果や独自のアイデアを熱心に共有し合う、極めて有意義な交流の場となりました。

発表会では、各分野にわたる先進的な研究成果が次々と紹介され、参加者間で活発な議論が交わされる様子が印象的でした。特に、修了を間近に控えた先輩学生の発表は、後輩たちにとって大きな励みとなり、彼らの研究意欲をさらに駆り立てる結果となりました。また、異なるバックグラウンドを持つメンバー同士が意見を交わすことで、従来の枠を超えた新たな視点が生まれ、今後の研究活動における方向性のヒントが数多く得られました。

さらに、合宿中に形成されたネットワークは、今後の共同研究や情報交換の重要な基盤となることが期待され、参加者全員にとって貴重な経験と知見をもたらしました。こうした学術交流の機会を通じて、研究の質の向上だけでなく、学生間および教員との間の相互理解が一層深まるとともに、合同研究会全体の発展にも大きく寄与するものと考えています。

最後に、このような充実した学術交流の場を提供してくださった学術交流活動助成金関係者および慶應 SFC 学会に、心より感謝の意を表します。今後も、双方の交流をさらに発展させるべく、継続的な取り組みを進めて参りたいと考えています。

以上